

海域の概要

本湾は、志摩半島の南部に存在するリアス式の湾で、西部を熊野灘に開いています。湾内には多数の島々が存在します。本湾は、真珠の養殖が日本で初めて行われた場所として有名です。



英虞湾

Specification

諸元

湾口幅：5.7 km

面積：42.23 km²

湾内最大水深：3.7 m

湾口最大水深：2.9 m

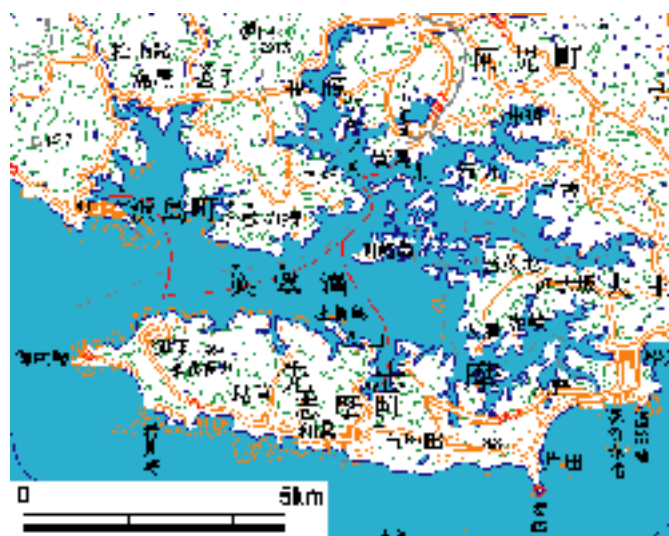
閉鎖度指標：1.45

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

三重県志摩郡大王町と同郡志摩町を結ぶ深谷大橋、同町御座岬と度会郡南勢町田曾崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

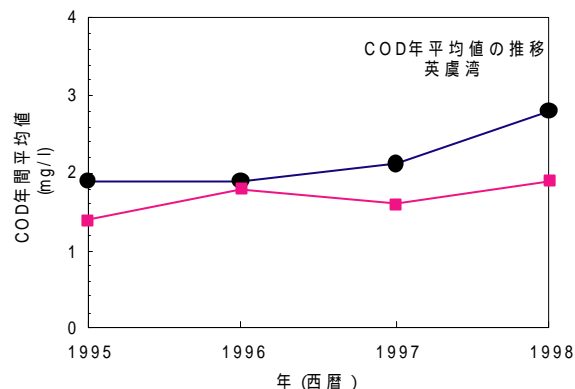


環境

永年の真珠養殖漁場としての利用と周辺環境の変化から、赤潮や貧酸素現象が起きるなど水質悪化が年々進み、毎年の様に真珠養殖等への被害が出ています。COD年平均値では、2mg/l弱から3mg/l弱の範囲にあり、測定点によってはCOD年平均値が高くなる傾向にあります。

海岸線は湾口に向かう西側では主に礫、転石、東側は転石、砂泥浜ですが、海域部の多くは、泥質です。

現在、湾内の環境改善を目指し、底泥の浚渫と浚渫処理土を利用した人工干潟造成の計画が進められています。



自然

英虞湾は志摩半島の東南端に位置し、前島（さきしま）半島によって熊野灘から隔てられています。海岸線は志摩半島のなかでも特に複雑なりアス式海岸で、六十余りの小島と真珠いかだが浮かんだ景観は良好で、伊勢志摩国立公園に指定されています。特に、夕焼けは「日本の夕日百選」にも選ばれています。

湾内の岩礁部には、アラメ・カジメ、ホンダワラ類、ヒジキ等を主体とする藻場が多く、また、湾口部の一部や入り組んだ支湾の奥部にアマモ場も分布します。

湾内に浮かぶ座賀島は、大部分がツバキ、ヤマモモ、ウバメガシなどの照葉樹からなる雑木林で覆われた自然度の高い小島で、暖地性シダ群落も分布しています。



英虞湾の夕焼け

文化歴史

英虞湾は昔からアコヤ貝の天然真珠の有名な産地でした。しかし、アコヤ貝が減少してしまったため、伊勢鳥羽志摩の海産物で商売をしていた御木本幸吉が、明治21年から英虞湾と鳥羽の街の対岸にある小島「相島（おじま）」の2カ所で、アコヤ貝の養殖を手掛け始めました。そして明治26年の夏7月、相島で世界ではじめて養殖による5粒の半円真珠を成功させました。昭和26年には、世界で初めて養殖真珠が産まれたこの島を「真珠島」として、全島を真珠パビリオンとして公開しました。

産業

英虞湾およびその周辺海域の漁業は主として定置網、刺網、一本釣り、曳縄、延縄、磯漁業、および養殖漁業ですが、湾内では特に真珠養殖が主要なものとなっています。また、沿岸性雑魚を対象とした小型定置網とつば網類は太平洋岸および英虞湾内の各所にみられる他、イワシ類を対象にした中型定置網が湾口を中心に行われています。

観光拠点としても有名で、湾北岸中央部に位置する賢島の真珠専門店街や賢島水族館等も整備され、また、湾内を周遊する観光船の就航や船上でのバーベキューや海鮮ランチ等も人気があります。